

第3回 市民公開講座「ここまでのがん治療」

「食道がんの治療を受ける方のために」

消化器外科 部長 平井 敏弘

私たちは、侵襲(ストレス)は、腫瘍の転移や増殖を促進するという基礎的・臨床的結果(サージカル・オンコタキシスと呼んでいます)に基づいて、がんの根治性をおとさない範囲での低侵襲手術すなわち経横隔膜的食道亜全摘術(胸をあけない手術)を行っています。この術式には、下部食道がん、早期がん、リスクの高い方という適応基準がありますが、手術時間は4時間強ですし、肺合併症もなく5年生存率が82.3%と非常に良好な結果です。また、放射線治療も非常に進歩しましたし、同時に併用される化学療法も新規抗がん剤(S-1、タキサン系薬剤)の出現で副作用も少なく効果も増強されました。安全で低侵襲の手術を行い、副作用は少ないが効果のよい補助療法を行うことで生存率が飛躍的によくなっています。